

— 論文要旨 —

表題	宝来沢水系に分布するヤゴの研究～大蛇ヶ原湿原から宝来大沼周辺に生息するヤゴの分布と生態～
----	--

学校名	北海道札幌南陵高等学校		
グループ名	科学部生物班		
	氏名	分担内容	
代表者	榊原 正皇	班長・現地調査・論文総括・結果と考察文の作成	
共同研究者	飯島 陸央	現地調査・ドローン操作・水質分析	
共同研究者	中村 皓月	現地調査・水質分析・図・表の作成	
共同研究者	杉井 悠翔	現地調査・水質分析結果のまとめ(図表・グラフ化)	
共同研究者	内澤 一星	現地調査・論文の校正	
共同研究者	杉山 歩大	現地調査・レポート作成	
共同研究者	大沼 睦喜	現地調査・論文の校正	
共同研究者	藤井 優輝	論文の校正	
個人研究	研究者名		
	学年		

< 要旨 ※400字程度 >

宝来沢水系には、トンボをはじめゲンゴロウやマツモムシ、エゾアカガエルやエゾサンショウウオ、ニホンザリガニなど多くの種類の生物が生息している。

私たちは8年間の調査で「大蛇ヶ原湿原(カオジロ池)」から「カエル池」までの538mの標高差に合計13種類のトンボが生息していることがわかった。

「宝来大沼」は、無意根山にむかう宝来沢林道はずれて進み2つの沢をこえて240mほど歩いたところ(標高777m)にある。この地域で一番大きな沼で、上空から見ると三角形に近い形となっている(ドローンによる空撮)。沼底には倒木が見られ、落葉、落枝が沈殿し浮葉植物や抽水植物が沼のまわりに繁茂している。沼周辺には、トドマツなどの様々な植物が茂っており静けさを漂わせる神秘的な沼である。

これまでの調査で大蛇ヶ原湿原の「カオジロ池」には、カオジロトンボとルリボシヤンマの2種類のヤゴが生息している。「エゾサンショウウオ池」には、タカネトンボのヤゴが生息し、「カエル池」まで広く分布している(2020年)。また「宝来沼」では、タカネトンボやエゾイトトンボ、オオルリボシヤンマが生息していることがわかった。さらに「太古の沢」では「生きた化石」と言われるムカシトンボの生息を確認することもできた(2023年)。またシオヤトンボやアキアカネ、コサナエトンボ、オニヤンマについても確認できており、多様なトンボが生息していることがわかってきた。

それぞれの池や沼、沢を調べるとそこに生息するトンボの種類に共通点と相違点が見られ、生物多様性の一環を担う重要で貴重な場所と言える。その場所で私たちは、継続的かつ長期的な調査、研究を行ってきた。